

# 平成24年度宮古群島病害虫発生予報第10号(1月予報)

## I 1月の気象予報

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)

	平均気温	降水量	日照時間
高い(多い)	40	40	20
平年並	30	40	40
低い(少ない)	30	20	40

(平成24年12月21日付沖縄气象台発表・沖縄地方1か月予報)

平年値

	平均気温(°C)	最高気温(°C)	最低気温(°C)	降水量(mm)	日照時間(h)
宮古群島(宮古島)	18.0	20.4	16.0	130.8	86.4

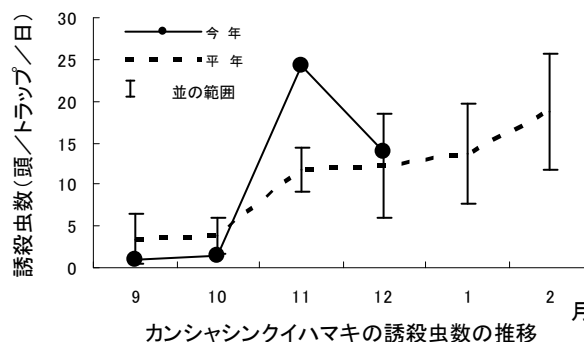
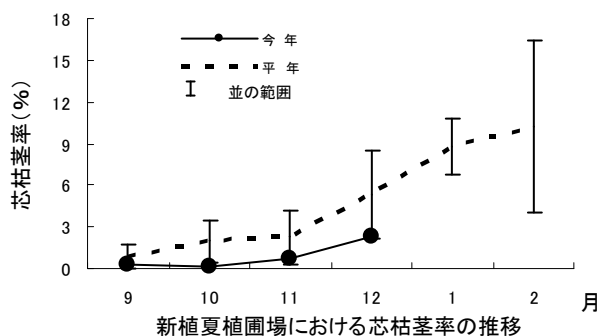
(沖縄气象台発表・統計期間1981～2010・資料年数30年)

## II 1月の発生予報および防除上の注意事項

### 1 さとうきび

#### ○ カンシャシクイハマキの防除対策

- a 12月中旬の調査の結果、新植夏植圃場における芯枯茎率は、2.3%(前年7.5%、平年6.0%)と平年よりやや低かった。
- b 12月のカンシャシクイハマキ合成性フェロモンによるトラップ当たり日当たり誘殺虫数は、13.8頭(前年19.6頭、平年12.3頭)と平年並であった。

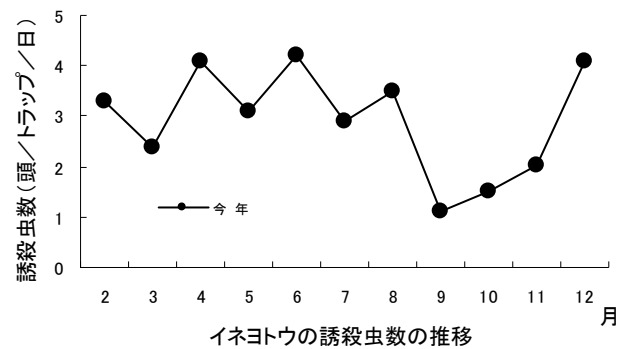
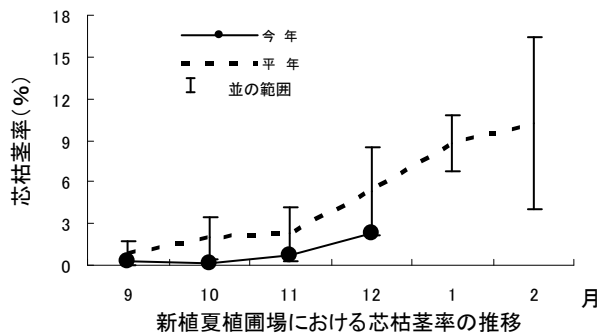


#### <防除上注意すべき事項>

- a ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- b 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、生育初期の防除を徹底する。
- c 圃場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- d 植付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。
- e 平成24年度病害虫発生予察技術情報第1号参照(平成24年4月5日付)。

#### ○ イネヨトウの防除対策

- a 12月中旬の調査の結果、新植夏植圃場における芯枯茎率は、2.3%(前年7.5%、平年6.0%)と平年よりやや低かった。
- b 12月のイネヨトウ合成性フェロモントラップによるトラップ当たり日当たり誘殺虫数は4.1頭であった。
- c 与那国島において、イネヨトウの被害が多発した際の誘殺虫数は2頭以上であった。



<防除上注意すべき事項>

- a カンシャシンクイハマキの防除上注意すべき事項を参照。
- b 平成24年度病害虫発生予察技術情報第5号(平成24年9月21日付)参照。

○ コガネムシ類幼虫(アオドウガネ・ケブカアカチャコガネ)の防除対策

- a 12月中旬の宮古地区病害虫対策協議会による掘り取り調査の結果、アオドウガネの株当たり幼虫数は0.1頭(前年1.2頭、平年1.2頭)と平年よりやや少なく、ケブカアカチャコガネの株当たり幼虫数は0.2頭(前年1.2頭、例年1.3頭)と例年より少なかった。
- b 立枯れがみられる圃場は早期に収穫し、収穫後は速やかに耕耘して、幼虫密度の低減を図る。

## 2 マンゴー

○ かいよう病の防除対策

- a 12月下旬の調査の結果、一部施設で発生がみられた。
- b 罹病した部位は速やかに施設外に持ち出し、焼却等の処分を行う。
- c 罹病枝を剪定した器具は消毒する。
- d 薬剤散布を行うと共に、罹病枝剪定後の切り口に殺菌塗布剤を施用する。

○ 炭疽病の防除対策

- a 本病は、出蕾前の芽に潜在感染するので、着果後の被害軽減のため、この時期からの予防に努める。
- b 不要な新梢や罹病した枝葉は発生源となるため、ビニール袋に入れるなどして施設外に持ち出し処分する。
- c 出蕾がみられる園では、花芽に対して薬害の少ない薬剤を選定する。

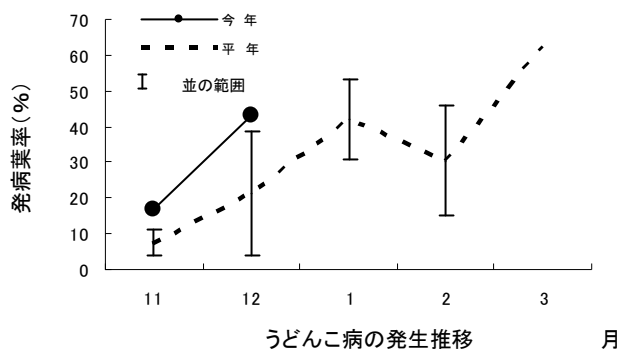
### 3 かぼちゃ

#### (1) うどんこ病

発生程度 : やや多

予報の根拠

12月下旬の調査の結果、うどんこ病の発病葉率は41.1%（前年94%、平年33.9%）と平年よりやや高かった。



<防除上注意すべき事項>

- 発生源となる株元の不要な老葉・下葉を除去し、透光通風をよくする。
- 着果期以降、草勢の低下に伴い被害が急激に広がる場合があるので、防除を徹底する。

#### ○ 細菌性病害の防除対策

- 強風による傷や降雨は、斑点細菌病や葉柄腐敗症などの発生を助長する。
- 防風垣は次期作まで残し、予防散布と初期防除に努める。

### 4 にかうり(施設)

#### ○ うどんこ病の防除対策

- 12月中旬の調査の結果、一部圃場で発生がみられた。
- 発生源となる不要な老葉・下葉を除去し、透光通風をよくする。
- 除去した葉は圃場内に放置せず、ビニール袋等に入れるなどして持ち出し処分する。

### 5 とうがん(施設)

#### ○ 菌核病の防除対策

- 気象予報によると向こう1か月は平年より曇りや雨の日が多いと予想されており、本病の発生を助長すると考えられる。
- 例年発生時期に当たるので、予防防除に努める。
- 多湿時に発生しやすいので、不要な老葉・下葉を除去し、透光通風を良くする。
- 発病部位は早めに除去し、ビニール袋に入れるなどして施設外へ持ち出し処分する。

#### ○ ミナミキイロアザミウマの防除対策

- 12月中旬の調査の結果、葉あたり虫数は0.1頭（前年0頭、例年0.1頭未満）で、つる先の成虫数は0.2頭であった。
- 発生源となる圃場内外の雑草を除去する。
- 持ち出し時に圃場内の虫の分布を広げてしまう危険があることから、除去した寄主植物はビニール袋に入れるなどして、施設外に持ち出し処分する。
- 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。